緑の架け橋

会報第14号
2009年06月30日

第11回植林緑化派遣団〔2009年4月10日~14日〕

中寧県にて新規プロジェクトスタート！！！

～第11回植林緑化派遣団（2009年春）報告～

上：中寧県での新規プロジクト地での植林模様。
左：こどもたちと派遣団。
（０９・４・１２）

緑の架け橋推進センターが、昨年 11 月に店じまいし、ＩＦＣＣ国際友好文化センターの直接事業として継続することになっての初めて派遣団でした。その活動は中寧県での新規プロジェクトをもって開始されました。

ＩＦＣＣ国際友好文化センター
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405　TEL. 03-3268-4387　FAX. 03-3268-6079
口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普）0858119　　郵振：00130-9-425994

本会報は事業主催（ＩＦＣＣ）の植林プロジェクト特集となります。

緑の架け橋プロジェクト
中国植林緑化活動協力事業

資料　新規事業「寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業」造林計画

実施地域　事業区は中寧県新堡鎮と恩と鎮紅梧山区域にあり、南部の穏やかな丘陵　地帯に属する。標高 1260m-1320m の間。地形は平坦で、高低 2－3m の差がある。土地は荒山が多く、土壌は白僵土、灰色土と風沙土からなる。土壌は有機質が平均 0.5%含まれ、土壌の ph 値 8.5 前後、土壌の理化性質は林木の生長に適している。同地帯の地表は水と地下水が不足し、水質が悪く、含水層は深さ 120m－200m 以上の間に埋まっている。事業区は西北内陸にあり、典型的な大陸性気候で、十分な日が照り、光エネルギーが豊富で、積温が高く、乾燥して雨が少なく、風が強く砂が多い。温度差が大きく、冬は長く寒い、夏は短く暑い、年間平均気温は 8.4℃、年間平均日照時間は 3002 時間、年間平均有効積温は 3257℃、無霜期は平均 176 日、年間蒸発量は 2000mm、年間平均降水量は 186mm、7、8、9 月の三ヶ月に集中し、主な災害には乾燥、霰、霜、砂嵐、乾熱風等がある。

造林計画　1、3か年計画で、2011 年までに都合３００ha に植林。今期の植樹規模は生態林 300ha。

2、基礎設置設備：作業道具、管理小屋、吸い上げポンプ、PVC パイプ、作業道等。

3、造林技術

苗木の品質：造林の苗木は 1-2 級合格苗木を選択。
新疆ポプラ、エンジュ、トネリコ、ニワウルシは直径 3 cm以上、リンゴは直径 1 cm以上、クコは直径 0.6 cm以上。
苗木の検収は規定の“一簽三証(3 回確認してからサインする)”制度に基づく。

整地方法：全面整地または帯状整地。

植樹密度：新疆ポプラ、エンジュ、トネリコは 3×3m 間隔、リンゴは 3×5m 間隔、クコは 1.5m×2m 間隔。

植樹穴規格：高木；60×60×60 cm、潅木；40×40×40 cm

植樹技術：植樹は造林技術規定をもとに行う。

4、保育管理

植樹前に剪定、根の整理。植樹後に灌水。苗木の活性後に施肥、除草、病害虫等の予防。管理小屋と灌漑施設等を建設。

後期の管理保護作業は中寧県団委と中寧県緑化委組織により実施し、専門の管理員を 9 人雇用。定期的に樹木の生長状況を確認したり、灌漑を行ったり、農薬を散薬したり、剪定等を行い、樹木の活着率を確保する。消火器を調達し、防火措置を制定。管理人を手配し責任を明確化し、パトロールを行い、秋には燃え易い雑草を除去し、林地の安全を確保する。防護柵を設置し、管理人が見回り、勝手な放牧と窃盗を防止する。

第１１回植林緑化派遣団（２００９年４月１０日～１４日）活動報告

報告：自治労新潟県本部　涌井一行

第１１回の派遣団は８人が参加し、石嘴山市・銀川・中寧県の３カ所の視察および植林を行ってきた。今回は天候にも恵まれ、多くの参加者との交流も深められ有意義な活動ができた。

４月９日（木）事前学習会および結団式・壮行懇親会

東京麹町のホテルで、佐藤ＩＦＣＣ副会長、鎌田事務局長からこれまでの各プロジェクトの概要について、プロジェクターを使い現地状況の説明がされ、これから行う植林活動について理解することができた。結団式と壮行会では、他県からの参加者をはじめ、この活動に協力していただいているみなさんとの親睦も深められ、「がんばってこよう」という意欲がわいてきた。

４月１０日（金）成田を出発。北京経由で銀川に到着

いよいよ成田から北京へ出発。３時間のフライトを経て北京空港に到着し、今回お世話になるスルーガイドの劉さんと合流し、まずは北京市内見学で盧溝橋と抗日戦争記念館を見学し、その後中華全国青年連合会を表敬訪問した。連合会では万副秘書長と洪副部長の歓迎を受けるとともに、参加者全員が植林活動に対して連合会から表彰を受けた。歓迎夕食会では、万氏と洪氏、新たにヤン氏が加わり交流を深めることができた。夕食後国内線で銀川へ２時間かけてむかい、ホテルに到着したのは日付が変わっており、つくづく中国の広さに驚いた。

佐藤団長と万福秘書長

４月１１日（土）銀川および石嘴山市の植林作業

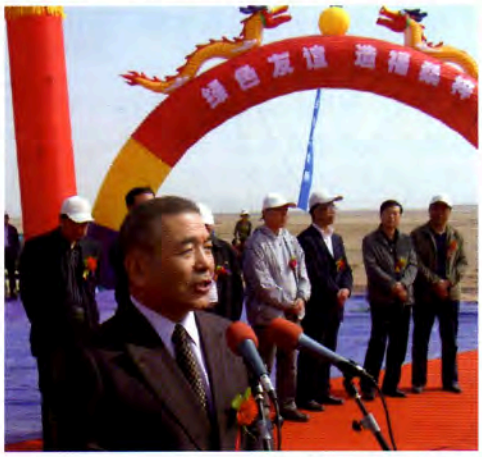
銀川プロジェクト地にて植林

朝９時にホテルを出発し、いよいよ植林作業と張り切る参加者は、植林の現場まで高速道路・一般道・砂利道・原野地帯を通り、２時間近くかけようやく砂漠の原野に到着した。銀川では、緑の架け橋プロジェクトの第１１回植林派遣団に対して３００人もの参加者（学生１００人・社会人２００人）から歓迎を受け、派遣団の紹介やあいさつの後全員で植林を行った。植林はコノテガシワやニセアカシヤなどを深さ0.5～1.0mの穴に次々と植えていき、現地の柄の長いスコップで土を被せていく。この土がくせ者で粒子が細かく目や鼻、耳や口にまで入り込むため、ゴーグルとマスク・耳栓は欠かせない。慣れない作業の中無事に植林を済ませると、今後は地元の人たちが水くれなどを行い木が枯れないように管理するそうだ。次は石嘴山市へ１時間以上かけて移動し、石嘴山市関係者と歓迎昼食会が行われた。盛大な歓迎ぶりに参加者は驚きながら、交流を深めていた。

午後からは、石嘴山市でコマツナギやニセアカシヤなどの植林を行い、セレモニーでは参加協力してくれた子供たちへ書籍の授与などもあり、植林活動の重要性について多くの人たちの理解があると感じた。植林活動に子供たちが一生懸命に参加しているのを見ていると、植林した木とともに子供たちの成長がとても楽しみである。歓迎夕食会では、銀川がモンゴルに近いこともありゲルのある店で地元の料理で歓迎を受けた。

石嘴山プロジェクト地にて植林

4月12日（日）中寧県の開工式と植林作業



中寧県の開工式での団長挨拶

今日は、新規にスタートするモデル林事業の中寧県の開工式に参加した。開工式会場では、地元の小学生による音楽隊や踊りの歓迎を受け、約1,000人近くの参加者の中で盛大に行われた。ここで驚いたことは、参加者に記念の金メダルが贈呈され、そのうえ植林の記念碑の中に今回の参加者8人の名前が刻まれたことで、今後の植林の行方についての責任を感じた。中寧県は回りが砂漠の原野でこんなところで本当に木が育つのかと不安になった。中寧県では、ポプラ、エンジュ、リンゴなどの苗木を植えた。今後の管理については中寧県が専門の管理員を9人雇用し、成長を見守っていく事となっている。今回の植林に関する移動にでは、警察が先導するなど国賓並みのVIP待遇に、それほどまでにこの活動に対しての期待されているのかと参加者全員驚いていた。歓迎昼食では、中寧県関係者と大いに交流を深めることができた。

午後は、中衛市の砂漠を体験するために片道2時間もの距離を移動した。この砂漠の砂は非常に細かくカメラなどを落してしますと使い物にならなくなるなど歩いていてもとても歩きづらかった。歓迎夕食会では、中衛市関係者と交流を深めることができた。

中寧県での植林

4月13日（月）銀川から北京に移動、北京市内見学

銀川から国内線に乗り、2時間のフライト後北京に到着した。今日は北京市内の天安門広場や故宮を見学し植林作業の疲れを癒すひとときとした。夕食は参加者だけで植林活動についての感想を話し合ったりして交流を深め、夕食後はカンフー劇なども鑑賞し楽しいひとときを過ごした。

4月14日（火）北京から日本へ帰国

朝食を済ませ、北京空港へ移動し日本へと帰国した。天候に恵まれた中で、4泊5日の緑化植林活動を無事に終了し、参加者からは安堵感が感じられた。

今回の体験は、誰でもが体験できる事でなく、まして地球環境にも関わる活動として参加協力できたことは有意義なことであり、今後少しでもこの活動に協力するよう心がけていきたいと思った。参加者のみなさん御苦労様でした。また、活動に協力してくださったみなさまに感謝いたします。本当にありがとうございました。

第11回派遣団参加者（8名）

氏名	所属
佐藤　晴男	当ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ代表
松尾　暁	自治労・佐賀
上田　勲	自治労・香川
涌井　一行	自治労・新潟
尾方　裕一	自治労・大分
鎌田　篤則	IFCC事務局長
長谷川　拓哉	自治労・新潟
小平　建一	自治労・長野